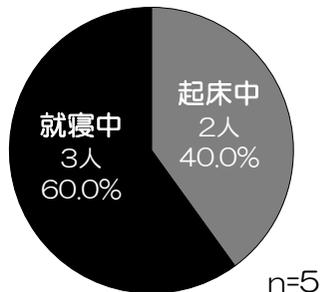


住宅用火災警報器で早期発見

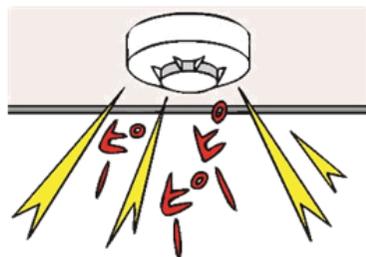
- 電気コード火災によって亡くなった方は、約6割が**就寝中**に発生した火災により命を落としています。
- 住宅用火災警報器は火災の煙や熱を感知し、警報音を発します。
- 住宅用火災警報器を**全ての居室・台所・階段**に設置することで、火災が小さいうちに発見し、自分の命を守ることができます。



電気コード火災発生時の死者の行為状況
(平成28年～令和2年 住宅火災)
※行為状況不明10人を除く

設置してよかった住宅用火災警報器

共同住宅の居住者(男性・30代)の居室で、長年電気コードが極端に折れ曲がった状態で使用されていたため、内部の線が半断線していました。半断線により電線に過度の電流が流れたため、発熱し、短絡して火災となりました。



隣人が、住宅用火災警報器の鳴動音に気づき119番通報するとともに、消火器で初期消火を行ったため、火災の延焼を防ぎました。

火災の発生・延焼拡大を防ぐために、コンセントや電気コードの周りには、燃えやすいものを置かないようにしましょう。



問合せ先

東京消防庁 調布消防署 防災安全係 電話番号 042-486-0119 内線320

令和3年10月発行

STOP! 住宅防火シリーズ⑤

火災から命を守ろう

STOP! 電気火災

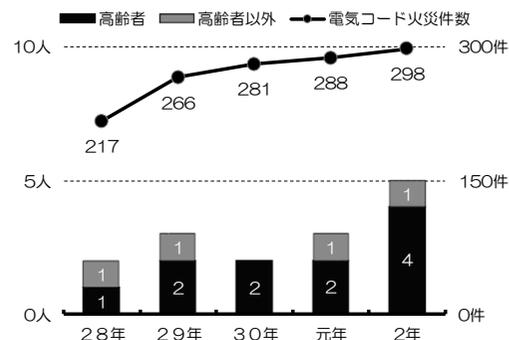
東京消防庁

電気火災って何？

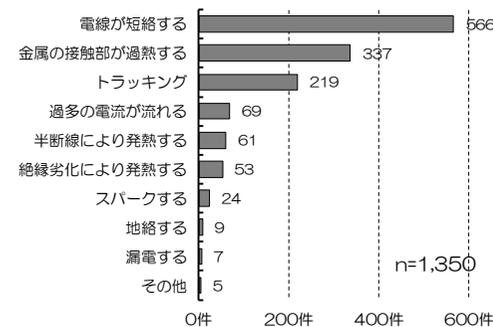
電気火災とは、電気や電気製品にかかわる火災のことをいいます。

身近に潜む火災危険

- 電気火災の中でも電線の短絡・トラッキング・半断線等によって起こる火災(以下「電気コード火災」という。)は、**火を使用している意識がないため、火災に気づきにくい**特徴があります。
- 令和2年中、電気コード火災は298件発生し、年々火災件数は増加しています。火災件数の増加とともに、死者数も増加しています。
- 電気コード火災に至る経過として、電線の短絡、金属の接触部過熱、トラッキングの順で発生しています。



電気コード火災の件数及び死者数
(平成28年～令和2年 住宅火災)



経過別の電気コード火災件数
(平成28年～令和2年 住宅火災)

次のページで、電気コード火災の発生する仕組みを知り、火災を予防しましょう。

電線の短絡（ショート）・半断線

電気コードの家具等による踏みつけ、束ねての使用、折れ曲がったままの使用は、電気コードの被覆の損傷や温度上昇、経年劣化による短絡（ショート）、半断線による発熱を引き起こし、火災の原因になります。

- 電気コードを家具の下敷きにしない
- 束ねて使用しない
- 折れ曲がりに注意する



※半断線とは、コード内部の線が一部断線した状態のことをいいます。

金属の接触部の過熱

プラグがコンセントにしっかり差し込まれていなかったり、プラグの差し刃が変形していたりすると、過熱して火災の原因になります。

- プラグはコンセントにしっかり差し込む
- プラグ・コンセントは変形等がないか定期的に点検する



トラッキング

コンセントに差したプラグの差し刃間にほこりが付着していると、湿気を帯びたほこりが電気回路を形成し、放電による火花が発生して、火災となります。

- 定期的に点検・清掃する
- 使用しないプラグは抜いておく
- 見えにくい場所のコンセントには特に注意する



過多の電流

電源タップを決められた容量以上で使用すると発熱し火災の原因になります。

- 電源タップは決められた容量内で使用する

